
魔法少女とかマジ笑える

二足歩行犬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女とかマジ笑える

【Nコード】

N0912Z

【作者名】

二足歩行犬

【あらすじ】

リリカルな世界に転生した少年の物語。

能力は貰えなかったが、精一杯生きています。今、中学2年生の春が始まる！！

プロローグ（前書き）

どうも、二足歩行犬です。

かなりgd gdな感じですが、どうか温かい目で見てやってください。

感想をくれると、夕食のおかずが一品増えます。

プロローグ

4月。

まだ寒が残るが、徐々に暖かさを感じるようになる季節。
そして、始まりの季節。

入学、就職、新学期、留年（笑）。

そんな始まりのイベントが、もちろん俺にもある。

西野音耶、中学二年生になりました！！

あつ、あと転生者です。

〽13年前〽

「知らない天井……が、ないだと…！？」

やってくれるな、俺を嵌めるなんて。

まさか天井がないとは。

で、ここどこだ？

「ふお、起きたようじゃの」

死んだじーちゃんに良く似た声がした。

おいおいっ！やめてくれよじーちゃん！！

俺が幽霊嫌いなもの知ってんだろ！？

下半身のダムが崩壊しそうなのを我慢して、恐る恐る振り向くと、そこには良く見知った人がいた。

「あ、あんたは！？」

「ふおおおお、そうじゃ。わしはk「山本元柳斎重國！！」万象一切灰じ、って違うわ！！！！！！」

ノリのいい老いぼれだった。

「で？あんただれよ？」

「神じゃ」

「へー」

「……それだけかの？」

いや、これ転生ってやつだろ？二次創作でよく見る展開だし。だから神が出て、特に何も。

「なんじゃ、つまらんのお」

頬を膨らませてブーブー言ってくる。うはっ、きめえ！！

「で、能力は何くれんの？転生先は？」

「転生先は『魔法少女リリカルなのは』の世界じゃ」

ああ魔王ね。

んで、能力は？

「やらん」

「what？」

「だから、能力はやらん」

なに言ってるのこいつ？

俺に桃色バスターを生身で受け止めろと？

「じゃあ原作介入は？」

「しなければ良からうが」

「それじゃ転生の意味なくね？」

「そうじゃの」

え？こいつ何なの？アホなの？死ぬの？

「まったく、うるさいやつじゃのお。いいか？わしだって能力をやりたい。しかしな、能力を授けると……減るんじゃ……」

減る？なにが？寿命か？

「髪じゃ」

「よし、つるつるになるまで能力寄せ」

「嫌じゃ!!」

「アンタの髪の毛だって、もう疲れたんだ!! 楽にしてやれ!!」

「毛は我と共にあり」

「お前もう帰れ」

「いや、お主が帰れ」

「いやいや俺死んで、ツなんだこれ!？」

足元から黒い何かが、徐々に俺を包んでいく。

「一応、魔導師の子供になるようにしといたからの。感謝するんじゃないぞ」

「あつ、ちよつ、アーーーーー」

黒いものに全身を包まれた俺の意識は、そこでブラックアウトした。

「ふむ、やっぱり能力をやっても良かったかのお。……いや、あや

つにまでやるとわしの髪の毛がなくなるか」

「さて、あやつら3人がどのような物語を見せてくれるか楽しみじや」

第1話 俺の家族。妹はマジ天使（前書き）

聖祥は男女一緒にしました。

何か誤字がありましたら、お教えください。

今日のうちに、あと一話いけるかな？

第1話 俺の家族。妹はマジ天使

現在、午後7時。

枕元に置いた目覚まし時計が、不快になるほど電子音を鳴らしている。

けど俺は起きない。

いや、実際起きているのだが寝たフリをする。

否！！しなければならぬのだ。

その時、扉をノックする音がした。

「……おにいちゃん？」

聞こえてくるのは、甘いロリボイス。

憎き早朝を清々しい朝に変えてくれるAngel voice。

しかしまだ起きない。

「入るよ？……起きて。学校遅れる」

そう言って俺を揺さぶる。

仕方ない、起きるか。

泣かれても困るしな。

「んっ…おはよう、雪音」

「おはよう」

ニコニコしながら挨拶を交わすMy Angel。

あまりの可愛さに撫でてやると、気持ち良さそうに目を細めた。
朝から俺を殺す気ですか？

「おにいちゃん、お腹すいた」

「ああ、今作るから待ってな」

そう言って雪音に先に降りてもらう。

俺は制服に着替えると、朝食を作るためリビングへ向かった。

「おっす、兄貴！！」

「朝からうるせー」

「兄貴が、テンション、低いだけだよ！！」

リビングで朝っぱらから逆立ち腕立て伏せをしているこいつは、弟の紫音。

別名、イガグリ紫音。

坊主頭の熱血男子だ。

坊主なのに紫音。

坊主なのに紫音。

大事なことなので二回言った。

「紫音、シャワー浴びとけよ」

「えー、めんどくせー」

「モテないぞ？」

「なんか無性にシャワー浴びたくなった!!」

風呂場に向かって走っていく紫音。

ふっ、単純な奴だ。

「おにいちゃん、ご飯」

クイクイっと服を掴む雪音。

雪音は俺の妹で、紫音の姉。

黒いツインテールが可愛さを倍増させている。

基本、俺と紫音と両親以外には口数の少ない女の子。

しかし、それがいい…。

ちなみに両親は管理局員をしているため、家には不在。

なので、俺たち3人で家庭を切り盛りしている。

まあ、主に俺だけだけど。

「雪音は何が食べたい？」

「…パン」

「じゃあ、パンと目玉焼きとサラダでいいか」

俺は裾を掴む雪音に名残惜しいが離れてもらい、キッチンへと向かった。

「「いただきます」」

朝食を作り終え、3人で食卓を囲む。

「兄貴、最近たるんでない？」

「いきなり何を言うか、イガグリ」

「イガグリじゃねえよ！！坊主だよ！！」

「で？何がたるんでるって？」

「修行だよ修行！！」

あー、確かに最近やってないかも。
時間もあんまり取れなかったし。

「まあ、俺は家族を守ればそれでいいからな」

「……わたし、守ってくれるの？」

「ああ、頼りないかもだけど、母さんと雪音は俺が守るよ」

「……あれ？俺と父さんは？」

「野郎は知らん」

ガツクリしているイガグリを放っておいて、向かいに座る雪音を撫でようとしたが……出来なかった。

原因はコイツ。

西野家名物、食パンタワー。

見上げるほどの食パンが、俺と雪音の間の壁となっている。

お陰で人形のような雪音フェイスが見えない。

ああ忌々しい。

「しかし、姉ちゃんは良く食べるよな」

「…食べるの、好き」

「俺は雪音の食べる姿が好き」

「……兄貴って本当に姉ちゃんが好きだよな」

「ああ、もう胸が満腹だ……」

「「いってきます（！！）」」

「おう、いってらっしゃい。あ、イガグリ、雪音の弁当落とすなよ」

「これくらい大丈夫だって！！」

そう言うイガグリの手には重箱2つ。

どちらも雪音の分だ。

雪音はかなり食べるのに非力なので、弁当持ちはコイツの仕事。

ちなみに2人は小6と小5です。

学校は私立聖祥大付属学校小学校。

俺はその中学2年。来年は雪音が上がってくる。
考えただけでも涎が出そうだ。

さて、俺も支度をして行くかな。

第1話 俺の家族。妹はマジ天使（後書き）

出ました、西野ファミリー！！

読みは：

おとや
音耶
ゆきね
雪音
しおん
紫音

です。

紫音とか絶対に付けられたくないですよね？
俺だったらグれます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0912z/>

魔法少女とかマジ笑える

2011年12月3日16時54分発行